

イスラエルはみな救われる

2008年6月1日 アシェル・イントレーター

今週はイスラエルにおいて、私たちの救い主であるイエシュア(イエス)の福音について、かつてないほど報道されました。

1. イスラエル人のジューズ・フォー・ジーザス(Jews for Jesus)メンバーであるダン・セレッドは、人気のチャンネル2の「グッドモーニング・イスラエル」番組でインタビューを受けました。オリツツ家の息子アミエルは小包の爆弾によって爆破(しかし奇跡的に生き残りました)の被害を受けましたが、オリツツ家はチャンネル1のウィークリーTV マガジンによってインタビューを受けました。メシアニックジュエーの十代の少女は、非常に高い人気のTVタレントショー「スター誕生」のオーディションを通りました。彼女が詩篇からの歌を歌うと、その油注がれた音楽と美しい声は、審査員たちを驚かせたのです。
2. オル・イェフダ市の副市長が新約聖書の焚書を計画したことを、マアリヴ誌が2面を使ってフルカラーで報道したため、宗教の自由の名において強い反応をもたらしました。

私が福音を証しているある超正統派の男性が、私が彼に言ったことについて自分のラビに聞いてみたいと言いました。彼が私と話したということで、彼のラビはきっと怒るだろうと私は言いました。(彼は私の言ったことを信じませんでした。)今週彼はショックを受けて戻ってきました。彼のラビが彼に向かって怒鳴ってきたというのです。彼はラビの怒りゆえに傷を受け、私たちの信仰の意味するものをもっと知りたいと願ってきたのです。ローマ書 11:26 の「イスラエルはみな救われる」という種は、まさしく私の目の前で植えられたのです。この約束は成就します。どうか、手の届くところまで近づいてきた大規模な、全国的なりバイバルについて共に祈って下さい。

霊的戦い

同時に、イスラエル人信者が何人も私の所にやってきて、IIコリント 4:8-9に書かれていることを経験していると話しました。「**私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行き詰まることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されませんが、滅びません。**」証が公になると、多くの霊的な圧力や戦いに直面することになります。神の御国の、これらの躍進のただ中私たちが感じているのは以上のようなものです。

私の一番上の息子はイスラエル軍の将校で、主要な戦闘師団を指揮していますが、彼にかかっているストレスや責任に、ただ「しっかりつかまる」ことしかできないと彼は言いました。それはサウロ(パウロ)の霊的戦いについての勧告を思い出させました。「**私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。**」(エペソ 6:12-13)時には、自分ができることはすべてやり尽くしたでしょう。もう何も残っていません。やれることはただ「しっかり立つ」ことで、ただ生き残ることだと。自分ができることをす

べてやりつくした、そのような状況では、2種の祈りを祈ることができます。1つはただ「霊」において祈ることです。エペソ 6:18「**どんなときにも御霊によって祈りなさい。**」とりわけ、それは異言で祈ることです。(Iコリント 14:14-15)

私たちは時々何をどう祈ってよいのか分からない時があります。しかし、たとえ私たちには何の力もないと感じることがあっても、聖霊は私たちを通して祈ることができるのです。(ローマ 8:26「**御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。**」)もう一つはプレッシャーを感じた時に祈る、イエシュアがゲッセマネの園で祈られたような祈りです。「**私の願うようではなく、あなたのみこころのように、なさってください。**」(マタイ 26:39)その時イエシュアはどのように感じておられたでしょうか。「悲嘆」「深い悲しみ」「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。」「見捨てられた、疲れた」(マタイ 26:37-41)多くの場合、私たちの人生において最も靈的に重要な瞬間というのは、まったく「非靈的」だと感じます。私たちは暗い感情、見失うこと、手に負えなくなる、敗北したという思いで溢れてしまうこともあります。そのような時点において、ただ繰り返すのです。「**私の願うようではなく、あなたのみこころのように、なさってください。**」戦いに負けてしまうと感じる時であっても、私たちはただしっかりつかまるのです。「**私の願うようではなく、あなたのみこころのように、なさってください。**」と祈るのです。信じられない勝利を得ることができ、イエシュアのご性質や高潔さが、私たちの中で構築されるのです。

迫害・大胆さ・奇跡

使徒行伝の中で、使徒たちが福音を述べ伝える機会が増えれば増えるほど、迫害の激しさも増えました。福音が暗やみを貫き通せば通すほど、迫害という反応も激烈になります。それは予想されるパターンです。それに対する私たちの反応はどうでしょうか。将来さらに福音を述べ伝えるための大胆さと、癒しの奇跡の力です。使徒 4:29「**主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。御手を伸ばしていやしを行わせ、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行わせて下さい。**」使徒たちは、彼らの証の現状レベルをバックアップしてもらうために奇跡を求めているわけではありません。彼らはすでに奇跡を見てきています。彼らはすでに大胆に証しています。彼らはすでに殴られ、監獄に入れられました。彼らが言っていることは、「主よ。私たちは今の大胆さですすでに迫害されています。しかし、それは私たちを悩ますものではありません。どうか、より大胆に証をするためにもっと力を下さい。そしてもっと奇跡を行わせて下さい。それらがより大きな迫害を私たちに対してもたらすことは知っています。証をするための大胆さと、奇跡にともなうしるしと不思議さえあるならば、私たちはさらなる迫害を受ける用意ができています。」

増加する迫害は私たちをより一致させます。私たち全員を敵が攻撃してくるならば、私たちは同じ体の一部分を成しているのです、それは明らかになります。従って、迫害に伴い、より多くの救い、奇跡、そして一致がもたらされますように、共に祈りましょう。